

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

バクモンドウとは・・・

ジャヒゲ : *Ophiopogon japonicus* (ユリ科) の根が太くなっている部分 (根の膨大部) のことで、中国では四川省、浙江省で栽培されています。

園芸などでは大きな木の根元に植えられている植物ですね。

【性味】 甘・微苦、微寒

ばくもんどう
麦門冬

今月のピックアップ

【薬能】 生津・養胃・潤肺止咳・清心除煩・潤腸



バクモンドウの成分と薬効・・・

主な成分はステロイド配糖体であるオフィオポゴニン A~D や、オリゴサッカライド、粘液質などがあげられます。主な薬理作用として、血糖降下作用、IgM 抗体 (免疫系サイトカイン) 産生抑制、咳反射抑制が報告されており、それによる潤肺止咳作用は薬能としてよく知られています。

バクモンドウの産地・・・

日本でもバクモンドウの栽培はかつて行われていました。特に三日市町 (河内長野市) 付近は、江戸時代は宿場町として知られており、その宿場の女郎さんたちの閑なときの仕事として、抽芯バクモンドウ (生干しのバクモンドウから芯を歯で引き抜く) の加工がおこなわれていたようです。農村の労働が余っていた時期には、この加工品は薬問屋が集まる“薬の街”大阪道修 (どしょう) 町にも供給されていたようです。

バクモンドウの果実？・・・

バクモンドウは冬に右の写真のようなきれいな実をつけます。じつはこれ、果実ではなく種子なんです。バクモンドウは被子植物なので、胚珠は子房に包まれて成長するのですが、これは果実が熟す過程で果皮が落ち成熟した種子が露出したものです。きれいな青色が特徴的です。



バクモンドウが含まれる方剤・・・

しんせいはいとう
辛夷清肺湯 (濃い鼻汁が出てときに熱感を伴うものの鼻づまり、慢性鼻炎、蓄膿症)

せいしんれんしん
清心連子飲 (胃が弱く、全身倦怠感、口渴があるものの残尿感、頻尿、排尿痛など)

ちやうとうさん
釣藤散 (高血圧症、動脈硬化、更年期障害、頭痛)

ばくもんどうとう
麦門冬湯 (痰が切れにくく咳込むものの咳、気管支炎、気管支喘息)

ジャノヒゲ類の鑑別・・・

バクモンドウはジャノヒゲという植物の根ですが、このジャノヒゲは右の③の写真のように細長い葉が特徴で、その様子が蛇のひげに似ていることからそう名付けられたという説もあります。

この細い葉がジャノヒゲと類似する植物①や②などは、バクモンドウと見分けが難しく、バクモンドウに混じることがあるようです。

	葉長 (cm)	葉幅 (mm)	株	種子
1 <i>O. chekiangensis</i> セッコウリュウヒゲ	50~70	3~4	草原に生育し、地中の葡萄茎で増え、大きな株を形成する。	種子はやや長く、先が尖り気味でいびつな形になっている。
2 <i>O. ohwii</i> ナガバジャノヒゲ	50~70	2~3	日陰に育ち、葡萄茎はなく、1本ずつ生える。	
3 <i>O. japonicus</i> ジャノヒゲ	10~20	2~3	草原に生育し、地中の葡萄茎で増え、大きな株を形成する。	つやつやした青色のまん丸な種子。



中国の市場で流通されているバクモンドウのほとんどは四川省産ですが、ときに①のセッコウリュウヒゲという浙江省産のバクモンドウ(杭麦冬)も流通することがあります。また、我が国に分布する②ナガバジャノヒゲもジャノヒゲと混同しやすい植物ですが、どちらもジャノヒゲ(バクモンドウ)とは基原植物が異なります。②は根の膨大部が太くて長く、糖質が多いため長く保存していると先端から濃い褐色に変色することでも違いを確認することができます。地上部分での見分けが難しいため、生薬となる部分の特徴をしっかりと見極めることが大切です。